



人口増に向けての取組の強化を



森元 清蔵 議員
(清流会・かさいを育む会)

問 第6次加西市総合計画の人口目標の達成状況は。

答 令和7年4月1日現在の人口は4万1,244人です。計画の目標人口である4万1,990人には達していませんが、国立社会保障・人口問題研究所の推計人口4万291人を上回っています。

問 人口減少対策の主な事業とPRの実態は。

答 UJIターン促進補助や大学生等遠距離通学定期券購入助成金、子育て応援の5つの無料化等を実施しており、ホームページやSNS等で発信しています。

問 移住・定住の取組は。

答 移住相談会では20組の相談があり、1世帯2人が移住されています。また、お試し滞在補助の利用は8件ありました。移住・定住の相談は250件となっています。

問 若者定住促進事業の状況は。

答 新婚世帯向け家賃補助が175件、若者定住促進住宅補助68件、結婚新生活支援補助8件の申込みがありました。

問 定住人口や交流人口ではなく、各市町に関心を持って援助したい気持ちのある人たち、関係人口を増やすことを国も提唱している。そのためには、加西市の魅力発信が必要ではないか。

答 加西市の強みである子育て支援施策とふるさと納税を

全面的に打ち出した広告、広報を行っています。

問 イベント参加者を関係人口として定着させていく必要があるのでは。

答 サイサイまつりや鵜野飛行場跡で開催したスカイフェスタ等の参加者を観光施設へ誘導し、情報発信や観光スポットのイベント誘致等を進めています。

問 約14万4,000人のふるさと納税寄附者に加西市をアピールし、関係人口へ結びつける取組が必要ではないか。寄附者の交流イベントをしてはどうか。

答 経費等の問題でイベント開催は難しいと考えます。ふるさと納税寄附者やイベント参加者、移住定住者を含め幅広く加西市の魅力を伝え、また、市民が加西市に誇りを持てるような情報発信も重要なと考えています。



市長の行政執行を問う ⑤



森田 博美 議員
(清流会・かさいを育む会)

問 新病院建設に向けた計画の進捗状況、その体制、メディカルタウン構想について具体的な説明がない。実現可能性は低いのではないか。議会から問われて答弁するだけで説明責任を十分に果たしているのか。

答 (副市長) メディカルタウン構想の現時点での見直しは考えていません。新病院を中心とした産業、住宅、商業等の波及効果が見込まれる好適地と考えます。令和12年の開院までまだ5年あり、計画を見直すことなく進めた

いと思いますが、具体的な報告はもう少し先になります。新病院の調剤薬局については関係事業者と交渉が進んでいる状況です。

問 我々は市民から尋ねられても説明できない。跡地の活用も含め、大ざっぱな内容やスケジュールは説明してほしい。医師会との協議もお願いしておきたい。

答 (副市長) 現時点ではお答えできる内容はありません。調剤薬局の件は協議中であり、具体的な内容が見えてくれば必ず議会にも報告します。もう少し時間が必要な現状とご理解ください。三師会も含めて具体的な計画がまとまってくれば報告したいと思います。

問 新病院の計画が5年伸びたことにより、医療機器や建

物、設備の老朽化等への影響は。

答 医療機器は計画的な更新に努めていますが、修理のサポート期間を超えて使用している機器が多いのが現状です。電気、給排水設備等の建築設備等の故障も発生しています。西館のマルチ空調設備は老朽化による故障が課題ですが、病院業務に支障が出ないよう努めています。

問 病院の跡地利用について、その検討は進んでいるのか。

答 (市長) 水面下の話もありますが、5年以上先の話のため立ち消えとなりました。跡地利用は移転した後の話ですが、市有地のため特段迷惑はかかるないと思います。移転後に有効利用を検討しますが、今のところ活用案はありません。